

# 生産出荷近代化計画の概要

[野菜指定産地名] 登米

[指定野菜の種別] 春キャベツ

[指 定 区 域] 登米市

[指 定 年 月 日] 平成17年2月18日

[計画樹立年月日] 平成18年2月13日

[計画変更年月日] 令和 7年3月27日

## [変更後の計画概要]

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

当地域では、キャベツを露地野菜の重点振興品目に定め、各関係機関の連携のもとで生産基盤の整備を進めている。

産地拡大に向けて、当地域では平成11年度にJAみやぎ登米キャベツ部会が設立されており、栽培技術の向上や種苗の紹介等の実施により生産者の意識を高めながら、地域を上げてキャベツ栽培を強力に進めている。今後も、生食用、加工・業務用需要に対応した生産に取り組み、産地発展に向けて出荷体制の見直し、連作障害対策等、キャベツ産地として安定供給及び農業経営の安定に努める。

真空予冷及び冷蔵施設の活用により、長距離輸送にも耐えうる状態となっている。鮮度の保持は、商圏の拡大及び市場評価を上げる要因の一つになることから、継続して活用するよう努める。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 3 0       | 2 5       |
| 生 産 量 (t)   | 5 3 4     | 5 8 7     |
| 出 荷 量 (t)   | 4 3 8     | 4 8 1     |
| 収量 (kg/10a) | 1, 7 8 0  | 2, 3 4 8  |

# 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 登米

〔指定野菜の種別〕 夏秋キャベツ

〔指 定 区 域〕 登米市

〔指 定 年 月 日〕 平成17年2月18日

〔計画樹立年月日〕 平成18年2月13日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

## 〔変更後の計画概要〕

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

当地域では、キャベツを露地野菜の重点振興品目に定め、各関係機関の連携のもとで生産基盤の整備を進めている。

産地拡大に向けて、当地域では平成11年度にJAみやぎ登米キャベツ部会が設立されており、栽培技術の向上や種苗の紹介等の実施により生産者の意識を高めながら、地域を上げてキャベツ栽培を強力に進めている。今後も、生食用、加工・業務用需要に対応した生産に取り組み、産地発展に向けて出荷体制の見直し、連作障害対策等、キャベツ産地として安定供給及び農業経営の安定に努める。

真空予冷及び冷蔵施設の活用により、長距離輸送にも耐えうる状態となっている。鮮度の保持は、商圏の拡大及び市場評価を上げる要因の一つになることから、継続して活用するよう努める。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 4 0       | 3 3       |
| 生 産 量 (t)   | 8 1 8     | 7 3 0     |
| 出 荷 量 (t)   | 7 1 3     | 6 3 5     |
| 収量 (kg/10a) | 2, 0 4 5  | 2, 2 1 2  |

## 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 みやぎ仙南

〔指定野菜の種別〕 夏秋きゅうり

〔指定区域〕 白石市、角田市、蔵王町、大河原町、村田町、柴田町、丸森町

〔指定年月日〕 昭和45年10月13日

〔計画樹立年月日〕 昭和46年8月28日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

### 〔変更後の計画概要〕

#### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

当区域は、昭和41年より野菜指定産地に仙南地域6町村（現在は7市町）が順次指定されたことにより、夏秋きゅうりの県内における主産地となった。

その後、産地強化が図られるとともに、JAみやぎ仙南を中心に、各地区の夏秋きゅうり部会を統一して連絡協議会を設置したほか、栽培技術の平準化、単収向上、病虫害防除の適期実施等に対して共通した認識で対応できるよう、指導体制の確立に努めてきた。

一方、露地を中心とした栽培体系のため気象の変動による単収の増減が大きいという問題を克服するため、耕畜連携による有機物施用等、土づくりを主体とした栽培技術の向上が図られてきた。また、現在各地で問題視され、当区域でも発生が確認されているズッキーニモザイク病等、アブラムシが媒介する病虫害の防除に関する技術講習会を開催するなど、土壌改良による対策にも力を入れている。

様々な栽培技術に取り組む反面、生産者の高齢化や後継者不足により作付面積は減少傾向にあり、今後もこの傾向は変わらないと考えられる。

今後は、有機物施用による土づくり重視と定期的な土壌診断の実施はもちろんのこと、雨よけパイプハウス栽培やネット栽培の推進により出荷期間の長期化と病虫害の発生軽減に努め、生産性の安定と作期の拡大による収量の向上を図ることで、指定産地としての維持発展を図っていく。

生産面では、積極的な土壌分析の実施により適正な施肥量の把握に努め、堆肥の施用や有機質資材の施用により、より良い出荷物の生産に繋げるため、部会一丸となって取り組んでいく。また、出荷規格の簡素化や出荷資材の統一などによる出荷体制の整備と生産経費の削減等、様々な取組が行われてきたが、近年は、収穫期間における猛暑等の異常気象対策が喫緊の課題となっていることから、関係機関一体となり技術指導の徹底を図っていく。

流通・販売方針としては、コンテナ出荷による京浜市場向け販売を中心とし、重点市場を絞り込んだ形での有利販売や、予約相対取引にも力を入れ取り組んでいく。

#### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目        | 現 状（R4） | 目 標（R9） |
|------------|---------|---------|
| 作付面積（ha）   | 38      | 33      |
| 生産量（t）     | 736     | 636     |
| 出荷量（t）     | 438     | 364     |
| 収量（kg/10a） | 1,937   | 1,927   |

## 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 登米

〔指定野菜の種別〕 夏秋きゅうり

〔指 定 区 域〕 登米市

〔指 定 年 月 日〕 昭和50年6月19日

〔計画樹立年月日〕 昭和52年1月31日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

〔変更後の計画概要〕

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

本産地は平成17年度に野菜指定産地の区域を変更し、旧中田町から登米市全域に拡大した。それに伴い生産者、作付面積の拡大が図られ、生産量増加に繋がった。今後は現在の主力生産者が高齢となり、生産力の低下が避けられない状態にあるが、平成7年度より稼働しているきゅうり共同選果場の活用により労働力軽減を図り、作付面積の維持を図るほか、JA独自の産地定着拡大事業として、種子・種苗の価格助成を行い新規生産者の誘導に努める。

流通面では、平成16年度までは生産組織ごとに独自のダンボールや出荷規格で販売を行っていたが、平成17年度よりJAみやぎ登米統一のダンボールや出荷規格での販売を開始した。その際、ダンボールには当地域出身の漫画家石ノ森章太郎氏の仮面ライダーを印刷し、産地PRキャラクターとして、みやぎ登米きゅうりブランドの定着を図ってきた。平成27年度からは同漫画家の代表作『サイボーグ009』を新たに産地PRキャラクターに起用し、PR活動などを実施してこれまで以上にみやぎ登米ブランドの定着化を図っている。

また、平成27年度の攻めの農業実践緊急対策事業を活用したきゅうり共同選果場の再編整備や、平成30年度のJAみやぎ登米管内4つの出荷部会を一つにまとめたJAみやぎ登米胡瓜部会の設立のほか、令和元年からは産地生産基盤パワーアップ事業による環境制御技術を備えた機器の導入も進めており、これらの取組により、生産量の維持及びさらなる選果場の利用向上を図る。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 6 4       | 5 6       |
| 生 産 量 (t)   | 2, 4 3 0  | 2, 0 1 0  |
| 出 荷 量 (t)   | 1, 8 0 2  | 1, 4 9 0  |
| 収量 (kg/10a) | 3, 7 9 7  | 3, 5 8 9  |

## 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 栗原

〔指定野菜の種別〕 夏秋きゅうり

〔指定区域〕 栗原市

〔指定年月日〕 昭和45年10月13日

〔計画樹立年月日〕 昭和46年8月28日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

### 〔変更後の計画概要〕

#### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

高齢化の影響により生産者及び作付面積は横ばい又は減少傾向にあるほか、近年の夏季の高温により、病害虫が多発し、樹勢の維持管理が難しくなっている。このほか、資材価格高騰の長期化もあり、農業者の生産意欲低下に繋がっている。

このような状況のもと、雇用型経営体への作付推進を図るべく、普及センター等の関係機関の協力を得ながら、経営管理技術に関する指導を実施していく。さらに、JA新みやぎ栗っこ地区本部きゅうり部会では新規栽培者等の若い担い手に対する支援体制を整えており、今後ともその育成に力を入れていく。

生産性の向上については、土壌分析を活用し、適正な土づくりを行っていく。また高温時における遮光資材の活用により樹勢維持に努めるとともに、病害虫防除の徹底による単収向上に向けた取組を強化していく。また、多収性、省力性、病害抵抗性を考慮した新たな品種の導入を検討していく。

出荷調製においては、作業の省力化や流通コストの低減を図るため、出荷規格の簡素化や、出荷資材、輸送形態及び出荷先の見直しについて検討を行っていく。

#### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 4 3       | 4 3       |
| 生 産 量 (t)   | 8 3 9     | 7 5 9     |
| 出 荷 量 (t)   | 4 3 3     | 4 3 0     |
| 収量 (kg/10a) | 1, 9 5 1  | 1, 7 6 5  |

# 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 古川

〔指定野菜の種別〕 夏秋なす

〔指 定 区 域〕 大崎市

〔指 定 年 月 日〕 平成 7 年 5 月 3 0 日

〔計画樹立年月日〕 平成 1 0 年 5 月 2 9 日

〔計画変更年月日〕 令和 7 年 3 月 2 7 日

## 〔変更後の計画概要〕

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

補助事業の活用によりパイプハウス等の施設導入が進み、半促成栽培を中心に出荷期間が拡大され、長期出荷体制が確立しつつある。今後も、安定生産、作業の省力化及び出荷体制の整備に努め、生産基盤を確立する。

これまでは気象に影響されやすい露地栽培から施設栽培への転換を図ってきたが、今後は生産者の高齢化への対応や安定した取引先確保の必要性等の観点から、加工・業務用向けを中心とする契約栽培についても積極的に拡大し、生産者の所得の安定と向上に努める。また、実需者ニーズへの対応のためGAP認証取得へ向けた取組を検討し、消費者が求める安全・安心ななすを生産し、信頼される産地確立を目指す。

生産者の高齢化や規模拡大による労働力不足に対応するため、単為結果性品種の活用による栽培の省力化や地域内の労働力を有効活用するための方策を検討する。また、生産規模の拡大に伴う法人化等も念頭に、産地の継続と後継者の育成を図る。

市場出荷向けの規格袋を一新し、知名度の向上と有利販売に向けた取組を推進するとともに、加工・業務用向けではバラ詰めによる契約出荷の導入による出荷省力化を図る。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 2 8       | 2 8       |
| 生 産 量 (t)   | 5 2 7     | 5 3 8     |
| 出 荷 量 (t)   | 2 9 5     | 3 1 9     |
| 収量 (kg/10a) | 1, 8 8 2  | 1, 9 2 1  |

## 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 石巻

〔指定野菜の種別〕 秋冬ねぎ

〔指 定 区 域〕 石巻市、東松島市

〔指 定 年 月 日〕 昭和５６年１月２３日

〔計画樹立年月日〕 昭和５６年９月１８日

〔計画変更年月日〕 令和 ７年３月２７日

### 〔変更後の計画概要〕

#### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

環境にやさしい栽培技術への取組により、安全で美味しい秋冬ねぎを安定的に生産することで、差別化された産地ブランドを確立するほか、産地独自の流通ルートの開拓により、消費者から信頼される秋冬ねぎの供給体制を確立する。

また、秋冬ねぎの専作化により難防除病害虫の増加や秀品率の低下が生じる傾向にあるので、水田への作付けや地力増進作物等の組み合わせによる輪作体系を確立することにより、生産性の向上と農家所得の増加を図り、国際競争に対応できる産地づくり及び農業経営の安定化を実践する。

近年、農産物の生産及び販売を取り巻く情勢として、温暖化による異常気象や物流問題等、様々な不安要素が増幅している。

新規就農者及び後継者育成強化はもちろんのこと、高温対策や排水対策並びに難病害虫対策に対応する講習会・研修会等を開催し、また、それらを通じた管理の実践により、安定的な生産技術の確立に努める。

このほか、拠点市場への集中出荷体制構築のため、JAと市場・関係機関と実需者が連携し、一体となって流通網の整備に努める。

#### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目        | 現 状（Ｒ４） | 目 標（Ｒ９） |
|------------|---------|---------|
| 作付面積（ha）   | ６４      | ５７．６    |
| 生 産 量（t）   | ９９９     | ８９９     |
| 出 荷 量（t）   | ７５３     | ６７８     |
| 収量（kg/10a） | １，５６１   | １，５６１   |

# 生産出荷近代化計画の概要

[野菜指定産地名]    中新田

[指定野菜の種別]    秋冬ねぎ

[指 定 区 域]    色麻町、加美町

[指 定 年 月 日]    平成9年5月30日

[計画樹立年月日]    平成12年3月31日

[計画変更年月日]    令和 7年3月27日

## [変更後の計画概要]

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

県内一の秋冬ねぎの産地である当地域では、補助事業等の活用により、パイプハウスや省力化機械等の導入が進み、農家当たりの作付規模が拡大してきている。しかし担い手の高齢化により、作付けを断念する生産者もいることから、産地としては現状維持の面積となっている。

また、品質面においては、農業改良普及センター等の指導により生産・出荷各段階での技術改良が着実な成果を上げ、市場評価の高い商品の安定供給を実現している。今後とも、ゆるぎない長ねぎ産地の実現に向け、より安定した生産体制を確立し、面積拡大を推進するため、施設・機械等の一層の充実、新技術の積極的な導入等を図り、生産基盤の整備を進めていく。

生産、品質等向上の具体的方策として、作業効率のアップとコスト低減のための省力化機械の一層の普及を目指すとともに、その効率的な共同利用体系の確立を目指す。また、平成18年度に総事業費2,500万円で真空予冷庫を県単事業により導入し、夏場の鮮度維持に向けた取組を実施している。さらには、畜産経営から生じる家畜排せつ物を地域資源として有効活用する資源循環型農業を推進するため、平成21年7月に区域内に加美町土づくりセンターが設置され、翌8月から本格稼働している。これにより良質な堆きゅう肥の施用による土づくりをより一層推進するとともに、合理的、計画的な作付体系を確立する。

販売面においては、一般青果、加工・業務用向けの契約栽培に取り組み、経営戦略の展開を目指す。一方、兼業化の進展に伴う担い手不足や生産者の高齢化等による労働力の低下に対応するため、集出荷作業の共同化を推進し、当地域内法人の出荷調製施設と連携した個人の労働力軽減に取り組んでいる。また、意欲のある農業者については、法人化等を念頭におきながら、その育成・指導にあたるものとする。

卸売市場向けについては出荷時期により段ボールの規格が分けられているが、県内の統一箱を設けることにより包装資材面における低コスト化の実現を目指す。

また、パレット積みが可能になることで2024年問題の改善を図る。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 3 7       | 3 7       |
| 生 産 量 (t)   | 6 1 8     | 6 3 3     |
| 出 荷 量 (t)   | 4 6 9     | 4 7 8     |
| 収量 (kg/10a) | 1, 6 7 0  | 1, 7 1 1  |

# 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 加美

〔指定野菜の種別〕 秋冬はくさい

〔指定区域〕 色麻町、加美町

〔指定年月日〕 昭和63年8月25日

〔計画樹立年月日〕 平成3年1月31日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

## 〔変更後の計画概要〕

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

区域全体出荷量の8割以上を地元の加工業者へ供給しており、流通コストの軽減及び安定した収入を確保できることから、農家当たりの作付規模が拡大している。また品質面においても、生産者相互の技術研鑽により、生産・出荷各段階での技術改良が着実な成果をあげ、実需者評価の高い商品の安定供給を実現している。今後とも、より安定した生産体制を確立し、生産条件整備に取り組むとともに新技術の積極的な導入を図り、生産基盤の整備を進める。

生産性向上の具体的な方策として、作業効率のアップとコスト低減のための省力化機械の一層の普及を目指すとともに、その効率的な共同利用体系を確立する。また、畜産経営から生じる家畜排せつ物を地域資源として有効活用する資源循環型農業を推進するため、平成21年7月、区域内に加美町土づくりセンターが設置され、翌8月から本格稼働している。これにより良質な堆きゅう肥の施用による土づくりをより一層推進するとともに、合理的、計画的な作付け体系を確立する。また、出荷期間の拡大を図るべく、平成22年に米の低温倉庫を改装し、積雪により収穫が難しい冬期前に収穫した際の長期保管場所としており、令和4年産は158トンを集荷した。このように、求められる産地として、需要期に出荷できる体制を整備している。

一方、生産者の高齢化による労働力の低下や離農者に対応するため、新規就農者への作付推進や農業法人の労働力を有効に活用するための調整方策等についても検討していく。

流通コスト軽減の為、従来の通いコンテナによる納品のほか、近年は鉄コンテナを使用して集荷作業の更なる労力軽減を図っている。また、地元企業への納品については生産者が直接工場へ搬入する体制を整えている。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 2 5       | 2 3       |
| 生 産 量 (t)   | 7 2 0     | 7 1 5     |
| 出 荷 量 (t)   | 4 7 9     | 4 9 0     |
| 収量 (kg/10a) | 2, 8 8 0  | 3, 1 0 9  |

# 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 石巻

〔指定野菜の種別〕 冬春きゅうり

〔指 定 区 域〕 石巻市、東松島市

〔指 定 年 月 日〕 昭和46年6月30日

〔計画樹立年月日〕 昭和49年1月26日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

## 〔変更後の計画概要〕

### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

当産地は昭和46年に野菜指定産地の指定を受け、きゅうりの安定生産供給に向けて、鉄骨ハウスの導入等により冬春きゅうりの生産拡大に取り組んできた。しかし、近年は都市化による農地の減少、連作障害（特に塩類蓄積）による収量及び品質への影響等により、産地の生産意欲が減退しているほか、従事者の高齢化も進み、生産者数が年々減少する傾向にある。

今後は、産地の維持・発展に向けて、生産出荷体制の見直しや連作障害対策、環境にやさしい栽培技術の導入等に取り組んでいく。

また、「JAいしのまききゅうり」のブランド確立に向け、消費者・実需者ニーズを把握しながら売れるきゅうり作りを検討するほか、契約取引の販路拡大、取扱数量の増加を図り、きゅうり産地としての安定供給と農業経営の安定に努める。

近年、農産物の生産及び販売を取り巻く情勢として、温暖化による異常気象や物流問題等、様々な不安要素が増幅している。

新規就農者及び後継者育成強化、高温対策並びに難病虫害対策に対応する講習会・研修会等の開催とそれらを通じた管理の実践のほか、環境制御技術導入の取組等により、安定的生産の確保に努める。

また、拠点市場への集中出荷体制構築のため、JAと市場・関係機関と実需者が連携し、一体となって流通網の整備に努める。

### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目        | 現 状（R4） | 目 標（R9） |
|------------|---------|---------|
| 作付面積（ha）   | 15      | 14.2    |
| 生産量（t）     | 1,379   | 1,314   |
| 出荷量（t）     | 1,212   | 1,148   |
| 収量（kg/10a） | 9,193   | 9,254   |

## 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 登米

〔指定野菜の種別〕 冬春きゅうり

〔指 定 区 域〕 登米市

〔指 定 年 月 日〕 昭和 5 0 年 6 月 1 9 日

〔計画樹立年月日〕 昭和 5 1 年 1 月 2 3 日

〔計画変更年月日〕 令和 7 年 3 月 2 7 日

### 〔変更後の計画概要〕

#### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

本産地は平成17年度に野菜指定産地の区域を変更し、旧中田町から登米市全域に拡大した。それに伴い生産者、作付面積の拡大が図られ、生産量増加に繋がった。今後は現在の主力生産者が高齢となり、生産力の低下が避けられない状態にあるが、平成7年度より稼動しているきゅうり共同選果場の活用により労働力軽減を図り、作付面積の維持を図るほか、JA独自の産地定着拡大事業として、種子・種苗の価格助成を行い新規生産者の誘導に努める。

流通面では、平成16年度までは生産組織ごとに独自のダンボールや出荷規格で販売を行っていたが、平成17年度よりJAみやぎ登米統一のダンボールや出荷規格での販売を開始した。その際、ダンボールには当地域出身の漫画家石ノ森章太郎氏の仮面ライダーを印刷し、産地PRキャラクターとして、みやぎ登米きゅうりブランドの定着を図ってきた。平成27年度からは同漫画家の代表作『サイボーグ009』を新たに産地PRキャラクターに起用し、PR活動などを実施してこれまで以上にみやぎ登米ブランドの定着化を図っている。

また、平成27年度の攻めの農業実践緊急対策事業を活用したきゅうり共同選果場の再編整備や、平成30年度のJAみやぎ登米管内4つの出荷部会を一つにまとめたJAみやぎ登米胡瓜部会の設立のほか、令和元年からは産地生産基盤パワーアップ事業による環境制御技術を備えた機器の導入も進めており、これらの取組により、生産量の維持及びさらなる選果場の利用向上を図る。

#### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目         | 現 状 (R 4) | 目 標 (R 9) |
|-------------|-----------|-----------|
| 作付面積 (ha)   | 3 2       | 3 2. 5    |
| 生 産 量 (t)   | 2, 0 4 0  | 2, 0 6 2  |
| 出 荷 量 (t)   | 1, 8 7 0  | 1, 8 9 0  |
| 収量 (kg/10a) | 6, 3 7 5  | 6, 3 4 5  |

## 生産出荷近代化計画の概要

〔野菜指定産地名〕 大崎

〔指定野菜の種別〕 ほうれんそう

〔指定区域〕 大崎市、涌谷町、美里町

〔指定年月日〕 平成8年5月30日

〔計画樹立年月日〕 平成11年5月30日

〔計画変更年月日〕 令和 7年3月27日

### 〔変更後の計画概要〕

#### ○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

補助事業等の活用によりパイプハウスや省力化機械等の導入が進み、周年出荷体制を確立している。産地全体としての生産量は、連作障害等の発生により減少傾向にはあるが、栽培技術対策としての土づくりや品種試験を実施し、技術レベルの平準化に取り組み、他品目との輪作体系を実施し、生産拡大に努めている。また、品質面においても、農業改良普及センター等の指導により、生産・出荷各段階での技術改良が着実な成果を上げ、市場評価の高い農産物の安定供給を実現している。今後とも、より安定した生産体制を確立し、作付面積の拡大を推進するため、施設・機械等の一層の充実、新技術の積極的な導入を図り、生産基盤の整備を進める。

生産性向上の方針として、土壌診断の徹底による有機質肥料中心の施用や、安全・安心な農産物生産で信頼される産地を目指すとともに、合理的・計画的な作付体系を確立する。さらに、市場の動向を踏まえた生産計画・出荷体制の展開を図る。また、販売面においては契約取引先の開拓・拡大を図っていく。特に、栽培マニュアル・防除マニュアルを基本に生産工程（栽培暦）等の栽培管理情報を取引先（市場・量販店）に開示する等、安全・安心に係る取組を推進するほか、市場・量販店等調査を行うことにより、有利販売に努めている。

兼業化の進行に伴う担い手不足や生産者の高齢化等による労働力の低下に対応するため、集出荷施設の整備も含めた省力生産体制の確立を早急に進めるとともに、収穫・調製作業の効率を追求した機械導入の検討や、地域内の労働力を有効に活用するための調整方策等についても検討を進める。特に、意欲のある農業者については法人化等を念頭におきながら、その育成・指導にあたるものとする。

#### ○生産出荷近代化の現状と目標

| 項 目        | 現 状（R 4） | 目 標（R 9） |
|------------|----------|----------|
| 作付面積（ha）   | 5 2      | 5 2      |
| 生 産 量（t）   | 4 2 1    | 4 1 3    |
| 出 荷 量（t）   | 2 3 4    | 2 4 5    |
| 収量（kg/10a） | 8 1 0    | 7 9 4    |